

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【2月度の御金言】【十字御書】(全集 1491 頁)

正月の一日は日の始め、月の始め、年の始め、春の始め、これをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく、日の東より西へわたりてあきらかなごとく、徳もまさり、人にも愛されて候なり。

【十字御書】(全 1491p)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日掲揚

☆ 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。

私は、いつも皆さん方に、「日蓮大聖人が私達に示された成仏の姿は、日蓮大聖人自身の生き方であります。日蓮大聖人の生き方とは、法華経の行者として生きる姿こそが成仏の姿であり、日蓮大聖人の生き方は一切衆生平等成仏の手本なのであります。」と、話しています。

成仏とは読んで字の如く、仏に成るという事であります。

仏に成るという事は、一般世間の常識になってしまっている様な、何も考えないで生活だけし、無信論で何も信仰をしないにもかかわらず、死んだら、何宗の僧侶でも良いから御経を読んで貰って、出来たら立派そうな長い戒名を付けて貰って、死んだら誰でも仏と呼ばれ、阿弥陀如来、大日如来、釈迦如来、薬師如来、観音菩薩、弥勒菩薩等々何にでも、おすがりして仏にして貰おうという、こういう、虫の良い成仏出来るはずも無い生き方で、成仏出来ると思いついでいる世間の人々とはまったく違う、前代未聞、未曾有の全ての生命に叶った成仏の法を日蓮大聖人は身を持って人法一箇の実体験をし、師弟一箇として一切衆生平等成仏を私達に示してくれたのであります。

だからこそ日蓮大聖人は、「生きて成仏、死して成仏」と、爪上の土、優曇華の花のような奇跡的な可能性で産まれて来て、その生きている時にこそ、南無妙法蓮華経の法に縁し法華経の行者として、一念三千の永遠常住の仏の生命が仏性として生命に具わっている事に気付き、生きて仏と成り、死しても仏と成る事を示してくれたのであります。つまり、生きている時に仏に成れない者は、死んで仏に成れるはずがないと断言されているのであります。

成仏の大願こそが仏と私達の一番の願いであり。菩提心堅固(何としても成仏したい)。

その為には成仏出来る事が説かれてある一番正しい手本のある法を信心修行したいという心を菩提心堅固と言います)の信仰こそが、成仏する為の必須条件なのであります。つまり、【成仏】と【菩提心】とは同じものなのであります。

成仏なんて分からん。一切衆生平等成仏なんて分からん。なんて思わないで下さい。言わないで下さい。日蓮大聖人も法華經の行者として実際に生きて、人法一箇を初めて自覚し、師弟一箇を自覚して、成仏が何か身を持って分かったのであります。私達も、遅くても、迷いながらも、さぼりながらも、日蓮大聖人が歩まれた同じ道を進めば必ず仏に成れるのであります。

☆ 3日は節分会です。四季の中で年四回、立春、立夏、立秋、立冬の次の日を節分とし生命の支えとなる自然の恵みを得る上で農事暦となる為大切にしました。特に2月の節分は春を迎える、新年を迎える旧正月と同等の意味で新しい年、新しい恵みの始まりとして特に感謝して迎えたのであります。一般世間の行事ですが、正宗では久遠元初本因妙一念三千の御題目を源・要として全ての生命が繋がっているんだという事を確認し感謝し迎える事の大切さを示す為に行っています。自宅で子供達に伝える為に行う場合も勤行をした後に、家じゅうしなくて御本尊様を御安置している部屋だけで良いですから、「福和内、福和内、福和内」だけで、「鬼は外」を言わないで、(十界互具の生命なので、地獄・餓鬼・畜生の生命を断ったり、追い出したり、否定したりは出来ない。仏界の生命で地獄・餓鬼・畜生の生命を包み込んで成仏するのであります。)行って子や孫にこの意義を伝えて上げて下さい。

☆ 16日は日蓮大聖人様の誕生会です。日蓮大聖人も自分達の家族と心得て、家族の誕生日と同じように祝い、大切にして下さい。日蓮大聖人も私達とまったく同じ人間として生まれ、悩み苦しみ、法華經の行者としての人生があったが故に、今こうして私達が日蓮大聖人様の法に縁する事が出来たのであります。この事に感謝し大切に参詣して下さい。